

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2137 号

Impact of inadequate initial antimicrobial therapy on mortality in patients with bacteraemic cholangitis: a retrospective cohort study

血流感染症合併の胆管炎の予後に対する不適切な初期治療の影響に関する後方視点的観察研究

田頭 保彰 (たがしら やすあき)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、日本で頻度が高い細菌感染症である胆管炎の中でも血流感染症を合併した胆管炎について、短期予後に関連する因子の検討を東京の第3次医療機関の2施設で後方視点的に行った。胆管炎の治療において、速やかな内視鏡的逆行性胆管膵管造影は重要なドレナージ術であり日本の第3次医療機関では迅速に施行されている手技であるが、ドレナージ術だけでなく初期の適切な抗菌薬選択が患者さんの予後に影響することを初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。抗菌薬適正使用において初期治療が不適切であることは、本研究で明らかとなった患者の予後に影響するだけでなく、治療期間の延長による抗菌薬の副作用やクロストリジオイデス・ディフィシル感染症、薬剤耐性の観点からも胆管炎の治療において適切な初期治療の抗菌薬を選択することが重要であることがいえる。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。